

リハビリテーションに関する国内研究者の 広がりについて

石立 裕子

帝京平成大学中野キャンパスメディアライブラリーセンター

I. 背景と目的

高齢化などを背景にリハビリテーションの需要は高まっており、国内におけるリハビリテーションに関する文献（以下、リハ文献）も増加傾向にある¹⁾。リハ文献を記事区分の割合でみると、「解説」と「原著論文」の2区分で9割以上を占めている(図1参照)。「原著論文」の継続的な増加傾向は、リハビリテーションを対象とする研究者が増加している可能性を示していると考えられる。そこで本調査では、リハ文献の「原著論文」の著者を調べ、リハ文献の研究者の広がりを明らかにすることを試みた。

II. 対象と方法

調査にあたり、文献検索は下記のとおり行った。

調査対象：1995年から2017年に刊行された国内誌に掲載されたリハ文献

抽出に用いたデータベース：医中誌 Web

検索日：2019年6月12日

検索式：リハビリテーション/TH and (DT:1995:2017) and (PT=会議録を除く)

研究者の広がりについては、1995年～2017年の間、リハ文献の収録が多い上位10誌に掲載されているリハ文献の筆頭著者の異なり数の推移を見ることとする。

調査結果及び考察については当日の発表をもって行う。

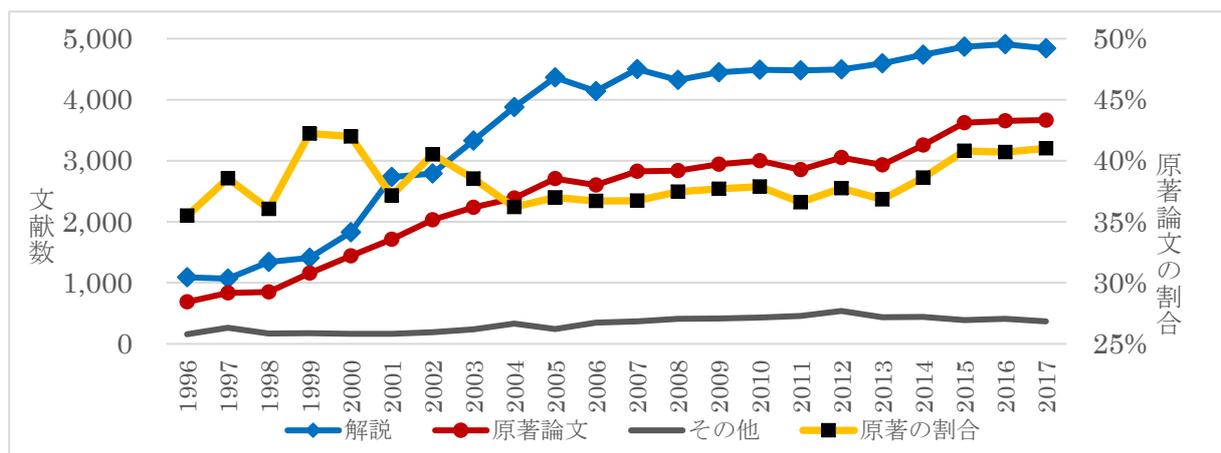


図1. 記事区分別文献数と原著論文の割合の推移

- 1) 石立裕子. リハビリテーションに関する国内文献の推移と傾向. 医学図書館. 2017, 64(2), p.79-86.